

日本建築学会中国支部ほか

「第13回鋼構造シンポジウム」を開催

床スラブの横補剛など紹介

日本建築学会中国支部
(支部長 田川浩・広島大
学大学院工学研究科教授)

はこのほど、日本建築構造
技術者協会(略称・J S C
A) 中国支部(支部長 清水
保雄・アクト建築設計代
表)ならびに
広島県鉄構工
業会(理事長
山本泰徳・
ステントス社
長)との共催

により、広島市中区中島町
の広島工業大学広島校舎で
「第13回鋼構造シンポジウ
ム」を開催。構造設計者や
ファブら約60人が参加した。

拘束されていることを評価
することで弾性座屈耐力が
上昇する点や、スラブより
上フランジの水平移動が拘
束されている非弾性横座屈
の領域では大きな座屈拘束
効果が得られる点を詳説。
その後の横補剛に関する質
疑応答では、具体的な意見
が活発に交わされた。

現在、横補剛のために小
梁や火打ち材の追加、小梁
ガセットプレート^①の拡大、
接合ボルトの本数増加など
が鉄骨加工の省力化への課
題となっている。

最後に清水・J S C A中
国支部長は「講演で紹介さ
れた内容について学術的に
裏付けされることを期待す
る」と締めくくった。



▲宇佐美氏が
床スラブの
横補剛につ
いて講演

今回は「床スラブの横補
剛効果について/簡単に求
める方法」と題して竹中工
務店技術研究所の宇佐美徹
氏が講演し、①横補剛のな
い合成梁の保有性能②横補
剛に関する既往の研究③近
年の実験結果——などにっ
いて説明した。

その中で梁の両端が柱で

2019年12月23日付
鋼構造ジャーナル